

基本理念

広域防災拠点の役割を担い、オリンピック・パラリンピックに向けた賑いと海辺の豊かな自然が共存する、世界の人々が集う臨海部のシンボルパーク

東京オリンピック・パラリンピックの開催を控え、世界中から多くの来園者を迎えるため、「安全・安心・快適」な施設環境の確保と、インバウンドにも対応した様々な取組が必要となります。

また、首都直下地震など大規模地震の発生が危惧される中、葛西臨海公園は、大規模救出救助活動拠点及び避難場所としての重要な役割を担っており、「人々の命を守る公園」としての役割を確実に果たす必要があります。

さらに、80haを超える面積を有し、海辺のリゾートのようなレクリエーション空間を備える葛西臨海公園と、ラムサール条約湿地登録候補地である葛西海浜公園とを一体的に捉え、その魅力と豊かな自然を次世代に継承していくことが重要です。

以上を踏まえ、私たちは「広域防災拠点の役割を担い、オリンピック・パラリンピックに向けた賑いと海辺の豊かな自然が共存する、世界の人々が集う臨海部のシンボルパーク」という基本理念に基づき、管理運営を進めてまいります。



クリスタルピューと大規模花壇

運営管理計画

【1】 都立公園の管理運営についての方針と具体的な取組

方針1 東京オリンピック・パラリンピックを全力でサポート

- 園内施設や交通機関等との連携の核となり、開催に向け東京都をサポート
- 東京オリンピック・パラリンピックの開催機運を醸成するため、スポーツイベントを開催
- インフォメーションの強化のため多言語化を推進

方針2 あらゆる想定で発災に備え、防災対応力を更に強化

- 職場ごとから全社的なレベルまで防災訓練を計画的に実施
- 都、江戸川区、警察等との連携強化のため公園連絡協議会等を開催
- 地域の様々な主体との防災訓練や、防災ワークショップを実施
- 園内施設管理者との連携を強化し、合同避難訓練を実施

方針3 海辺のレクリエーション空間としての魅力向上

- 多くの方に楽しんで頂けるイベントを開催
- 大規模花壇の魅力アップ

方針4 臨海部の貴重な自然の保全と普及

- 生物多様性保全戦略に則り、園内の自然環境の保全・活用
- 自然ガイド等により、環境教育の場としてより広く展開

方針5 安全・安心・快適さを提供する堅実な維持管理

- 園内施設・設備の快適性を確保するため、計画的な補修・改良を実施
- ユニバーサルデザインに配慮した補修等の実施
- 不適正利用の未然防止に努め、来園者が安心して楽しめる環境を提供
- 安全・安心を確保するため、点検や迅速な補修等を実施
- ゴールデンウィーク等の繁忙期において駐車場に関する周辺道路への影響を緩和

方針6 様々な主体とのパートナーシップの拡充

- ボランティア等との連携を深めるとともに、積極的にパートナーを新規開拓

【2】 質の高いサービスを提供するための具体的な取組

(1) 海辺のレクリエーション空間としての魅力向上

<シンボルパークにふさわしい大規模イベント等による魅力アップ>

- サマーフェスティバルや水仙まつり等季節に応じたテーマの大規模イベントを開催
- パークビュースポットである大規模花壇をデザイン化

<首都東京のシンボルパークの魅力を磨く取組>

- 大規模花壇のライトアップを実施
- ボランティアとの協働等によるスイセンの開花率の向上

(2) 自然とのふれあいや生物多様性保全の取組

- NPO等と連携して自然や野鳥の情報をHPやウォッチングセンターを活用して発信
- NPOやボランティア等と協力し、鳥類園やバードサンクチュアリの観察会等を開催
- 自然を詳しく知りたい利用者向けに内容を深めた野鳥や植物の自然観察会を実施



水仙花壇のライトアップ

(3) 多様なライフスタイルに寄与するプログラムの展開

<教育や地域活動の場の提供>

- 子どもの健全育成に寄与し、地域に貢献するため、食育の場として幼稚園児等を対象としたスイカ栽培等畑作体験を実施
- 園内の自然資源を活用した、子ども昆虫教室等の自然ふれあいイベントや環境教育プログラムを展開



野鳥観察会

<日本文化を楽しむ>

- 日本の文化と四季を感じて頂くため、正月飾り、こいのぼり、七夕等を実施
- 桜スポットとして公園の魅力発信するため、HP等で桜並木をアピール

<地域連携による活性化>

- 社会貢献の場の提供と園内美化推進のため、企業CSRや近隣町会、ボランティア、学校等の清掃活動の活動団体を拡大
- 公園主催のイベントに地元ハワイアンサークルの出演、地元農産物等の販売ブースや伝統工芸品の紹介ブースを出展

【3】オリンピック・パラリンピックを契機とした公園の魅力向上の取組

- 窓口サービスの充実のため、「公園コンシェルジュ」の任命、タブレットによる通訳アプリ、英会話フレーズ集やウェルカム情報ボードを活用
- 「おもてなし花壇」、日本の風物詩の飾り付け、緑のカーテンの設置
- 竹細工教室、打ち水、おしぼり頒布の実施
- HP、園内サイン等の多言語化、スマートフォン等を用いたセルフガイドアプリの開発
- 「公園総合案内パンフレット・マップ（多言語版）」を作成・配布

【4】オリンピック・パラリンピックの開催後までの着実な運営

- 東京都をサポートするため、園内施設や交通機関との連絡協議会を立ち上げ
- 防災掲示板や防災リーフレット等の多言語化を推進
- アメニティ巡回を実施し、公園施設及び公園の不適正利用をきめ細かく点検
- おもてなし水準向上のため、草刈・清掃の工夫やトイレ特別洗浄等を実施
- 大会終了後も、公園が円滑に運営できるよう連絡協議会を継続

防災業務計画

(1) 大規模救出救助活動拠点確保の取組

- 大規模救出救助活動拠点となる第3駐車場について、これまでの訓練の成果や「東京都現地機動班活動要領」を踏まえ、「震災時対応マニュアル」を改定し訓練を実施
- 発災時の具体的な連携体制や役割分担に係る東京都との協議の推進



江戸川区との防災無線訓練

(2) 避難場所等に係る取組

- 避難場所の運営を行う江戸川区との連携を強化し、協力して訓練や防災普及活動を実施
- 防災ホットラインを強化するため区の防災無線を使った情報伝達訓練を実施
- 発災時の対応や防災の普及啓発について協力体制を強化するため区と防災連絡会を実施

(3) 公園管理者としての防災力向上の取組

- 防災訓練結果を反映した震災対応マニュアルの更新・改善
- 発災想定を変えた実効性の高い防災訓練を全社的に実施
- 安否確認システムを使用した伝達訓練を定期的に実施し、職員の参集の可否を迅速に把握
- 防災士資格を有する防災推進リーダーを2名以上配置

(4) 都民の防災力を高めるための普及啓発の強化

- 水仙まつりなど大規模季節イベントで、防災スキルが体験できる「Let's 防災ワークショップ」を開催
- 防災情報ひろばの展示に多言語での解説を追加し、ひろばで防災ワークショップを実施
- 「防災公園総合ハンドブック(英語版)」に加え、中国語・韓国語版を作成し、幅広く配布
- 「子ども向け防災公園ハンドブック」を作成し、防災訓練等で活用するとともに、学校等に配布

施設維持管理計画

(1) 防災関連施設の維持管理

① 防災関連施設

- 「防災施設管理運用マニュアル」に基づく維持管理等を的確に実施
- 発災時の運用を想定した定期点検、公園間の情報共有のための合同点検の実施
- 職員・参集者による使用訓練を継続して実施
- 住民の使用を想定した地域連携訓練の実施や、防災関連施設の使用説明看板の設置

② その他の公園施設

<安全・安心・快適性を常に追求する計画的な維持管理>

- PDCAサイクルに基づく計画的な維持管理
- 維持管理作業の「見える化」の推進
- 効果的・効率的な「近隣共同作業」の推進

<公園をレガシーとして将来に継承する上質な維持管理>

- 「臨海部のシンボルパーク」の顔となる「パークビュー」等の景観形成を意識した維持管理
- 多様な生物の生息環境を考慮した維持管理を行うとともに、生物多様性の普及啓発を推進
- 東京都の指導のもとに水質改善につなげる取組や、アシ刈りを実施
- ユニバーサルデザインを考慮した維持管理

<多様な主体と連携・協働した効果的な維持管理の推進>

- 「新技術活用判定会議」を継続実施し、新たに開発された工法・材料等を有効活用
- ボランティアや企業・団体等との協働による維持管理の推進



近隣共同作業



アシ刈り作業

(2) 事故や災害、感染症等を未然に防ぐ安全対策と発生時の対応

<平常時から事故や災害に備え、発生時には迅速かつ的確に対応>

- 事故等発生時には、本社と現場及び特約店と一体となり365日24時間の危機管理体制で対応

<危険箇所や要因を早期に発見・対処する恒常的な取組>

- アメニティ巡回や繁忙期の重点警備による安全確保
- 協会樹木医による樹木診断や公開樹木診断、樹木点検員による点検、マツ枯れ防止対策等を実施
- 電気設備の法定点検、遊具の定期点検と精密点検等を実施

<気象災害に対する事前の備えと対応>

- ハザードマップを活かし台風接近時等には事前に巡回点検や側溝清掃を実施
- 台風大雨に備えた緊急配備体制の確保、(株)ウェザーニューズ社との契約による異常気象情報の早期収集と活用、気象災害時の特約店対応の事前準備
- 発生時には、人員の集中投入や特約店による迅速な応急措置と復旧作業を実施